

フッ素塗布が心配な保護者様へ

薬は、どのような薬剤も用法用量を守らず使用すると副作用が生じます。薬を飲むメリットとデメリットを理解し、ちょうど良い量で使うことになっています。フッ素を含む薬剤も同様です。用法用量を守れば、生体に害を及ぼすものではありません。

最近ではフッ素塗布に対して一般の患者様も御理解ある方が増えてきましたが、かつてはあまり『フッ化物塗布』は社会的に受け入れられていないのが事実でした。確かに以下のような中毒症状が起こることはありますが、上記の理由から用法用量を遵守している範囲では中毒症状はほぼ全く生じないと断言できます。



急性中毒量	症状	対応処置
2mg/kg以上	悪心、胃部不快感、流涎、嘔吐、腹痛、下痢などの不快症状(症状は軽度なことが多い)	牛乳や石灰水などの経口投与、改善しなければグルカゴン酸カルシウムの静脈注射
5mg/kg以上	低カルシウム血症、昏睡、痙攣、心不整脈などの重篤疾患	救急処置、入院処置
15mg/kg以上	呼吸停止、意識喪失、致死	救急処置、入院処置

では、具体的にどのくらいの量で中毒になるのか？

薬の量は、薬を飲む患者様の体重で計算することになっています。

以下に体重20kgのお子様の場合にフッ素を含む薬剤を使用する場合に中毒が起こる可能性があります。

(例)体重20kgの幼児の欄に記載している量が中毒症状が起こる可能性がある分量ですが、計算結果を御覧頂ければ、中毒症状が生じる可能性がある分量を口の中に入れることはあり得ない分量であることが分かります。



・歯科医院でのフッ素塗布

使用フッ化物	フッ素イオン濃度 (ppm (%))	悪心嘔吐発生量(ml)	(例)体重20kgの幼児
歯科医院での塗布用フッ化物	9000 (0.9)	体重(kg) ÷ 4.5	20kg ÷ 4.5 = 4.4ml

・学校などでのフッ素洗口(うがい)

使用フッ化物	フッ素イオン濃度	悪心嘔吐発生量(ml)	(例)体重20kgの幼児
0.2%フッ化ナトリウム溶液	900 (0.09)	体重(kg) × 2.2	20kg × 2.2 = 44ml
0.1%フッ化ナトリウム溶液	450 (0.045)	体重(kg) × 4.4	20kg ÷ 4.4 = 88ml
0.05%フッ化ナトリウム溶液	225 (0.0225)	体重(kg) × 8.8	20kg ÷ 8.8 = 178ml

・家庭でのスプレー式フッ素塗布

使用フッ化物	フッ素イオン濃度	悪心嘔吐発生量(ml)	(例)体重20kgの幼児
レノビーゴ ^R	100 (0.01)	体重(kg) × 19.8	20kg × 2.2 = 396ml



いずれも間違えようのないぐらい多量！！

歯科医院でのフッ素塗布について

歯科医院でのフッ素塗布は安全な分量を適正に使用しているため、患者様へ害が及ぶことはありません。また、ご自宅や学校などでフッ素を含む歯磨き剤や洗口液を御使用の患者様も、歯科医院のフッ素塗布は問題ありません。その理由は、ご自宅や学校で使用しているフッ素を含む薬剤は歯科医院のものと、フッ素濃度も塗布する期間も異なります。

フッ素塗布について、より詳細なことを御知りになりたい方や、当院のホームページを見てもなおご心配な患者様・保護者様は当院院長へ直接お問い合わせください。

